

IV-167

東京区部民鉄駅周辺における商店街の 道路網形態に関する研究

住宅・都市整備公団 正会員○水野伸一
 日本大学理工学部 正会員 新谷洋二
 日本大学理工学部 正会員 大澤厚彦

1はじめに

鉄道交通に大きく依存しているわが国の都市において、鉄道駅の集客力は非常に大きいといえ、駅周辺地区は商業地として重要な地区として発展してきた。商店街は街の歴史によって様々な形で広がりを見せ、区画整理などの計画的な開発と、スプロール地区などの地域における開発方法の違いや、都市基盤の整備が進められるにしたがって、街の構造が様変わりするなど、これらは駅周辺の商店街に様々な形態を造りだした。本研究は東京23区内にある私鉄郊外駅付近の街の構造と、駅前商店街の形態の関係を歴史的な全体像で模索することを目的とする。また本研究は、調査地域を限ったケーススタディーとして研究を進める。

2本研究の構成

今回の現地調査で、駅前商店街として扱ったものは、駅から始まる商店街と、駅を中心として多方面に伸びている商店街を対象とした。その結果から、現在の駅前商店街の形態を分類し、その形態がいかなる要因の影響を受けて現在にあるのかを考える。

対象地域は世田谷区、杉並区、足立区、葛飾区のそれぞれの区内を通っている、私鉄の各駅の駅前商店街を対象として現地調査をした。東急新玉川線、小田急線、京王線、京王井の頭線、営団丸の内線、西武新宿線、東武伊勢崎線、京成線、京成金町線である。

3駅前商店街の形態と要因

今回調査した駅前商店街の広がり方は、路線型商店街(図1)、放射型商店街(図7)、面的型商店街(図2)、複合型商店街(図3)の4種類に分類できる。また今回の研究では、影響を与えた要因として、開発方法、都市公共施設、街道、商業施設、住居施設、レジャー施設などの点から検討した。



図1 路線型商店街

図2 面的型商店街
小田急線梅ヶ丘駅

図3 複合型商店街 小田急線・井の頭線下北沢駅

4結果および考察

各要因の影響を強く受けていると考えられる駅を調査地域から選び考察する。

(1)開発方法について検討した結果

図4で見られるように、世田谷区において、区画整理などの計画的な事業実施地区では、街路網

の構成と街区の形態が整備されているので、商店街は面的型商店街を形成する。これに対してスプロール地区では、路線型商店街や放射型商店街などを形成する。したがって、事業実施の有無によって商店街の形態に違いがみられる結果が出た。また杉並区、足立区、葛飾区においてもほぼ同じ結果が出ている。

(2)都市公共施設について検討した結果

・京成線堀切菖蒲園駅について

幹線街路や補助幹線街路は、市街化を誘導する性格をもつと考えられる。

(3)街道について検討した結果

街道は、都市公共施設で扱う交通施設であるが、地域の歴史的変遷に大きく影響してきたと考えられるので独自に検討した。

・小田急線経堂駅について

図5に見られるように、小田急線が開通する前の経堂駅周辺は農地が広がっていた。昭和2年に小田急線が開通すると、青山道に沿って住宅が建ち並び始めていることが分かる(図6)。現在においても、青山道に沿って商店街が形成されており、現在までの経過を見ると、青山道が経堂駅周辺地域の市街化の基本軸となり、現在の商店街の形態(図7)を形成してきたと考えられる。

(4)商業施設について検討した結果

・東急新玉川線二子玉川駅について

大規模な店舗である玉川高島屋の進出は、鉄道を利用しての遠方からの利用客を期待でき、周辺の商業地としての機能を高めている。

(5)住居施設について検討した結果

・小田急線祖師ヶ谷大蔵駅について

住居施設は、商店を誘引すると考えられる。

(6)レジャー施設について検討した結果

・京成金町線柴又駅について

柴又帝釈天は、鉄道を利用する遠方からの参拝者を呼び寄せるので、参道に沿って商店街を形成している。

・東武伊勢崎線東向島駅について

遊郭の存在が消滅しても、付近の商店街は衰退せずに現在に至っているので、形成要因であった施設が消滅しても、何らかの形で存続していることが分かる。

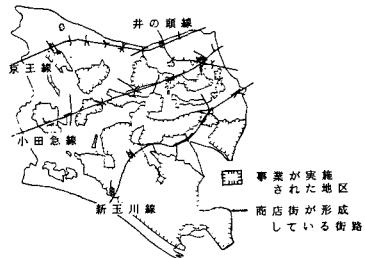


図4 世田谷区の事業実施地区と駅前商店街の形態

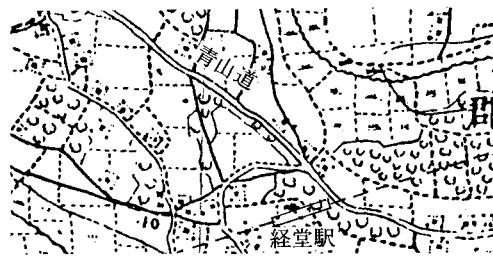


図5 明治14年 経堂駅付近



図6 昭和4年 経堂駅付近



図7 平成5年 放射型商店街に形成した経堂駅付近

5 結論

以上のように、駅前商店街の形態は、その地域によって様々な要因が影響して、現在に至ると考えられる。その主要な特徴としては以下のようないわゆるあげられる。

- ・区画整理などの事業は、商店街の形態に影響する性格をもつと考えられる。
- ・交通施設の発達は、市街化を促進させた。
- ・商業施設、レジャー施設は、交通施設の影響を受けて発展してきた。